

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	「まちづくりポイント」の利活用による「共鳴・共感・協働の地域公共圏」創出事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	多摩市 多摩NPOセンター運営会議
実施期間	平成23年7月1日から平成25年3月31日まで
支援額 (注釈参照)	※ 6,169,215 円 人件費：15,000 円 諸謝金：45,000 円 委託費：1,344,000 円 印刷製本費：60,900 円 設備備品購入費：2,704,380 使用料：1,905,435 消耗品費：94,500
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	多摩市は、関係各部署との連絡調整や、多摩NPOセンターとのパートナーシップにて、当該事業全体の調整の役割を果たし、多摩NPOセンターは、市民向けイベントの開催等を開催し、地域SNSの普及活動の役割を果たし、多摩大学総合研究所は、学生やゼミ活動において地域SNSの活用を促進させること等の役割を果たし、サービス・ラーニング中間支援機構は、「学生の学びによる地域貢献」の仕組み研究、また、多摩NPOセンターと連携して、寄付や、ファンドレイジングの仕組みを開発検討する役割を果たしている。
事業概要	固有の課題を抱える多摩ニュータウン地域を中心として、その地域課題を解決していくための潜在的な多様な担い手が、地域SNSを活用することで、「共鳴・共感・協働」していく地域公共圏を創出することで、「新しい公共の場づくり」を進めることを、協議体を中心となって産み出すことで、定着を図ることを目的としています。
事業内容	<p>(1) 地域SNS利用法講習会 当イベントは、高齢化が進む地域住民をターゲットとし、“自分事”を発信するソーシャルメディアの一つである地域SNS、また「たまTOWNTIP」の理解を深めるために講師をたてて開催した事業である。多摩市や、多摩NPOセンターが関与する地域活性イベント時に(株)地域協働推進機構へ委託し行った。</p> <p>(2) 地域SNS体験講習会(利用登録イベント) 当イベントは、実際に地域SNSの登録や、操作法に慣れて頂くために講習会直後や、イベント開催時に実施した。多摩大学の学生を起用し、対話型で実施した。</p> <p>(3) フォーラム・事業報告会開催 協議体合同にて、事業年度の締めくくりとして開催。地域に関連し、課題解決に取り組んでいる方を起用し、討議する中で、当該事業へのヒントや、示唆、指摘をいただく場となった。また、事業報告会を通じて、今後の事業化に関わって頂く方を招待し、当事者意識を醸成する場としてまとまった。</p> <p>(4) マッチングイベント コミュニティビジネスの担い手×地域、NPO×地域、自治会×地域、地域企業×地域、地域大学×地域企業、地域大学×地域のような掛け合わせでセッションを行い、双方の理解促進、共鳴共感かた協働に繋がるような対話を促進し、地域SNSを活用したオンラ</p>

	<p>インの連携、そして、現実の課題に関わる協働で行う貢献活動を醸成することを目的とした。主に多摩NPOセンターが主催し、多摩大学総合研究所がとりまとめる役割を果たした。</p>	
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>※支援の成果、波及効果、今後の展望等のアウトカム等の事業の総評を記載する。(500字以内)</p> <p>今回のモデル事業に採択され取り組んだことにより、得られた大きな点は、平成24年度に関しましては、毎月協議体を開催し討議を行ったことにより、立場の違いを越えて、多摩市の地域課題に対し、それぞれが取り組む内容が醸成されたことだと言えます。機械器具類を導入できたことにより、交通系カードを利用したポイント蓄積のベースと、デジタルサイネージ(電子看板)のベースが構築された。このことにより、今後、地域貢献ポイントの付与が可能になる基礎となることや、サイネージを通して、情報の可視化が可能となった。それを利用することで地域活動の可視化を図り、市民のそれぞれの立場を越えた情報の入手が可能となった。今回の事業内で、「0(ゼロ)」からの協議体構築を行い、今までに無い新たな事業の起ちあげを行ってきました。平成23年度の半年間は、ほとんどをその調整に費やしましたが、その結果は、各主体が本音で話し合い、それぞれが抱えている課題の解決に取り組むイベント等に、他の主体が関与することで、様々な気づきがあり、新たな主体(市民ファンド(地域創造基金)の起ちあげが必要という結論になりました。言わば、ここで育まれた「協議体」が、今後も発展的に多摩市の「新しい公共の場づくり」に関わっていく基礎が築かれたということが結論的に言えます。創出予定であった、「地域貢献ポイント」は、「寄付」や直接的な「志の循環」の醸成に繋がる様相です。たま TOWNTIP の加入者数は、事業前には52人であったものが、1年半の事業期間中に239人に増加(約4.6倍)し、本家の鶴ヶ島市には及びませんが第2位、先行していた世田谷区、中央区を追い越しています。</p>	
	<p>評価ラ ンク</p>	<p><input type="checkbox"/> S : 特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A : 優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B : 一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C : 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D : 成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

自己評価シート